

最近の管内経済概況

(平成30年11月の経済指標を中心として)

～ 緩やかに持ち直している ～

最近の動きをみると、

- 生産活動は、持ち直しの動きがみられる。
- 個人消費は、持ち直している。
- 観光は、持ち直しの動きがみられる。
- 公共工事は、増加している。
- 住宅建設は、弱まっている。
- 民間設備投資は、増加している。
- 雇用動向は、改善している。
- 企業倒産は、件数は同数、負債総額は減少している。

全体として、管内経済は、緩やかに持ち直している。

なお、先行きについては、人手不足が管内経済に与える影響、国際経済の動向等を十分注視する必要がある。

※ 下線部は、前月から判断を変更した部分。

平成31年1月17日

照会先 : 経済産業省北海道経済産業局
総務企画部企画調査課

T E L : 011-709-2311 内線 2525

E-mail : hokkaido-kikakuchosa@meti.go.jp

U R L : <http://www.hkd.meti.go.jp>

管内経済概況判断の推移

(平成31年1月現在)

発表月	平成30年8月	9月	10月	11月	12月	平成31年1月	前月との判断比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	持ち直しているものの、足下に北海道胆振東部地震の影響がみられる	北海道胆振東部地震の影響により、一部に弱さがみられる	北海道胆振東部地震の影響から回復している	緩やかに持ち直している	
全国	景気は、緩やかに回復している	景気は、緩やかに回復している	景気は、緩やかに回復している	景気は、緩やかに回復している	景気は、緩やかに回復している		
生産活動	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	弱含みとなっている	急激に低下している	回復している	持ち直しの動きがみられる	
個人消費	持ち直している	持ち直している	持ち直している	持ち直している	持ち直している	持ち直している	
観光	改善している	改善している	改善している	悪化している	緩やかに回復している	持ち直しの動きがみられる	
公共工事	減少している	減少している	減少している	減少している	減少している	増加している	
住宅建設	弱まっている	弱まっている	弱まっている	弱まっている	弱まっている	弱まっている	
民間設備投資	増加している	増加している	増加している	増加している	増加している	増加している	
雇用動向	改善している	改善している	改善している	改善している	改善している	改善している	
企業倒産	件数、負債総額とも減少している	件数は増加、負債総額は減少している	件数、負債総額とも減少している	件数、負債総額とも減少している	件数、負債総額とも減少している	件数は同数、負債総額は減少している	

※全国は、内閣府「月例経済報告」の基調判断。

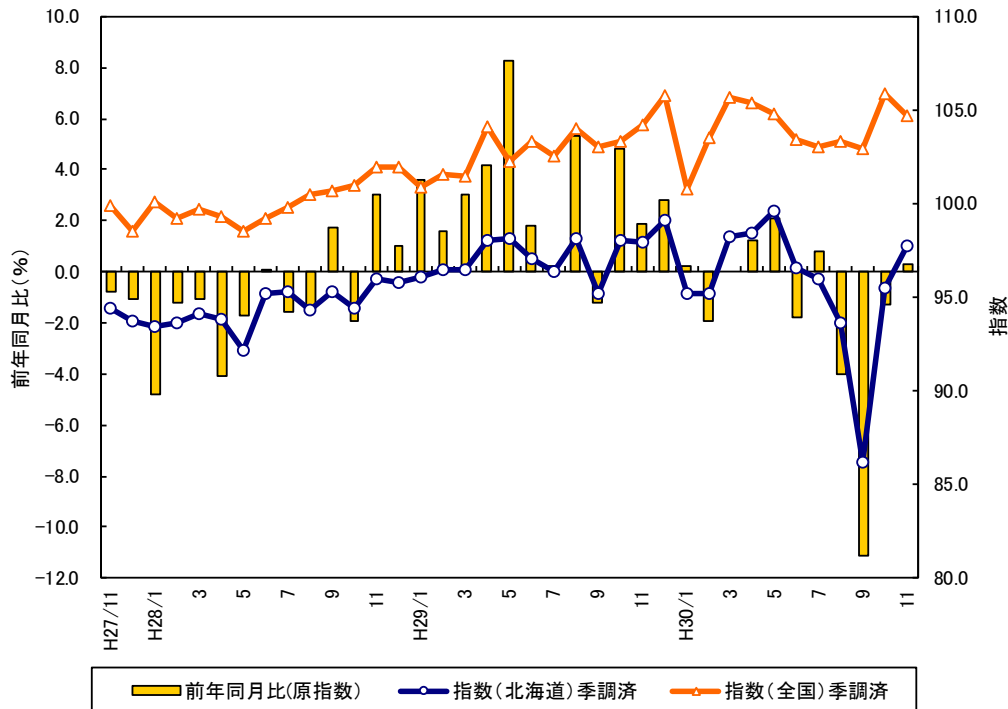
※下線部は、前月から判断を変更した部分。

上方修正 据え置き 下方修正

11月の鉱工業生産は、前月比+2.3%と2か月連続で上昇した。
前月の挽回生産の反動から新聞巻取紙が減少したものの、生産設備の完全復旧から石油製品が増加した。

<11月>
季節調整済指数
北海道(速報) 97.7(前月比+2.3%)
全国(速報) 104.7(前月比▲1.1%)

鉱工業生産指数(平成22年=100)



【ヒアリング内容】

■現在の状況

- 地震・停電の影響により稼働していなかった生産設備が完全復旧したため、ガソリン・灯油等石油製品の生産が増加した。
(石油・石炭製品工業)
- 型式変更作業の遅れが解消したことから、海外向け農業機械の生産が増加した。(一般機械工業)
- 地震により生じた設備の不具合が復旧したことから、ビールの生産が増加した。(食料品工業)
- 地震により生じた倉庫のシステム不具合の解消から、清涼飲料水の生産が増加した。(食料品工業)
- 前月に停電の影響による減産分を挽回生産した反動から、新聞巻取紙の生産が減少した。(パルプ・紙・紙加工品工業)
- 前月に地震・停電の影響により操業停止した減産分を挽回生産した反動から、自動車部品の生産が減少した。(輸送機械工業)

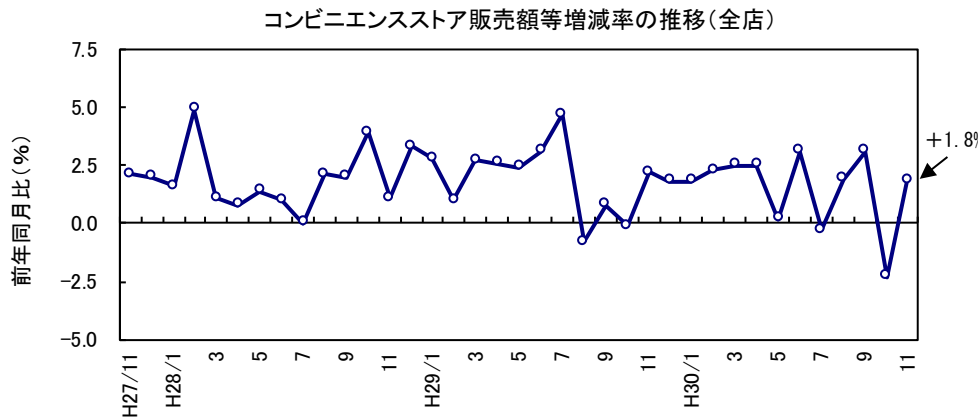
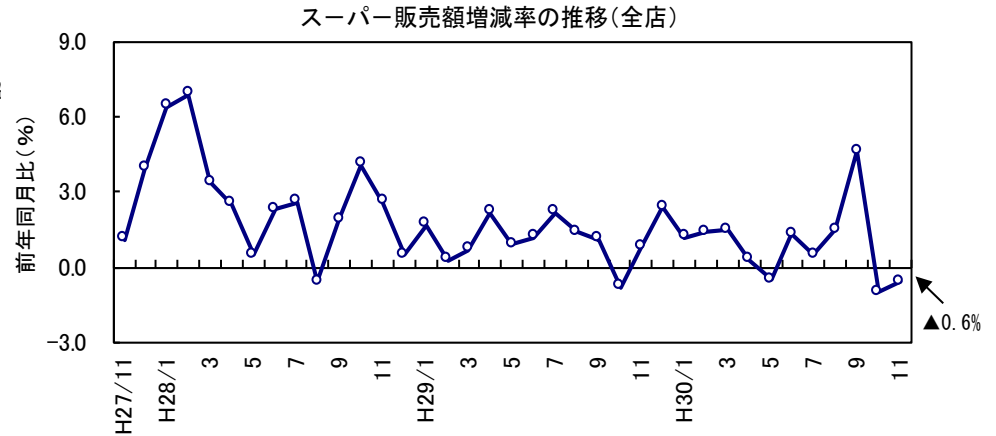
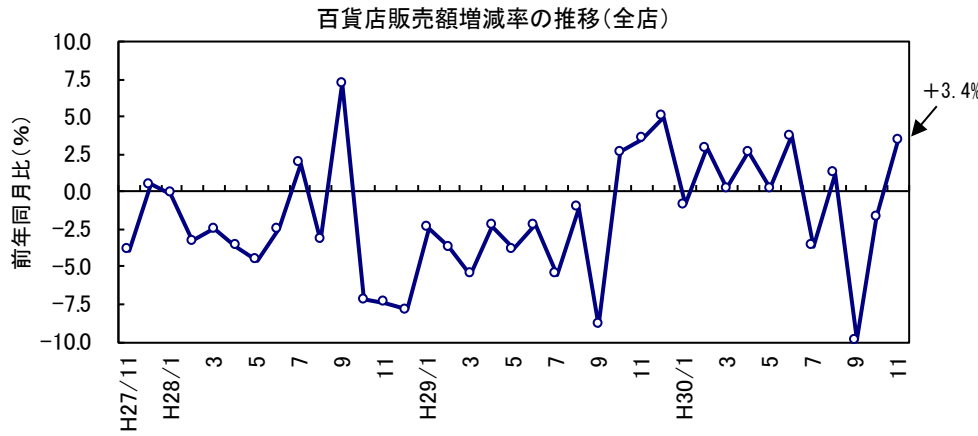
■先行き

- 定期修理の終了により、セメントの生産が増加する見込み。
(窯業・土石製品工業)

(注)全国は平成27年=100

(資料:経済産業省、北海道経済産業局)

- 1 1月の個人消費は、衣料品の動きに加え、一部に防災関連用品の需要が続いたことなどから、持ち直している。
- ・百貨店は、降雪後に冬物衣料が好調に動いたことや免税売上が回復したことから、前年同月比+3.4%と3か月ぶりに前年を上回った。
 - ・スーパーは、暖冬の影響で冬靴などの実需品の動きが鈍かったことから、同▲0.6%と2か月連続で前年を下回った。
 - ・コンビニエンスストアは、たばこ増税の影響から回復したことから、同+1.8%と2か月ぶりに前年を上回った。



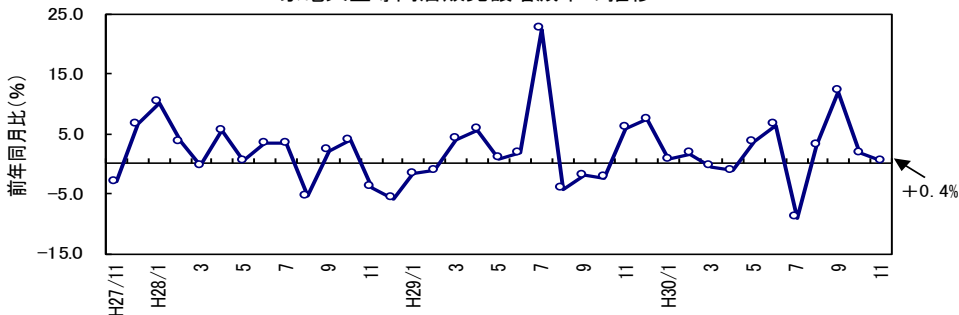
【ヒアリング内容】

- 現在の状況
 - ・免税売上は、前月まで強く残っていた地震の影響が薄れ、客数も売上も回復してきている。(百貨店)
 - ・防災用品などの予定外の支出や灯油などの燃料の高騰により、節約志向がより一層高まっているようだ。(スーパー)
 - ・値上がり前の9月にたばこのまとめ買いがあった影響からは脱している。今月は気温が高く、人の動きがあったことから、売上が伸びた。(コンビニエンスストア)
- 先行き
 - ・気温が低くなってきていることから、鍋物需要や冬物衣料の動きに期待したい。(スーパー)

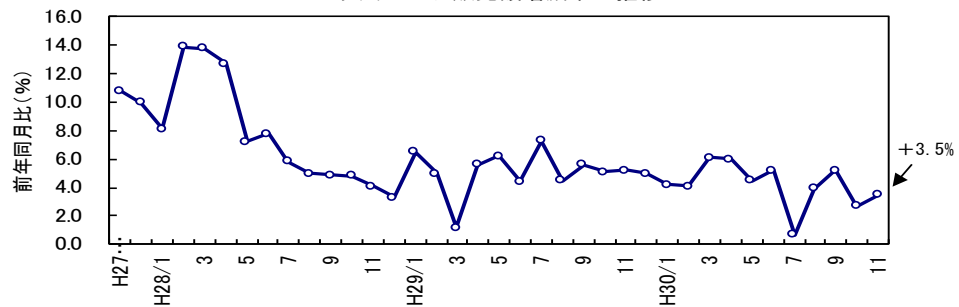
(資料:北海道経済産業局)

- ・家電販売は、前年同月比+0.4%と4か月連続で前年を上回った。
- ・ドラッグストアは、同+3.5%と43か月連続で前年を上回った。
- ・ホームセンターは、同+5.7%と3か月連続で前年を上回った。
- ・新車販売は、同+0.9%と2か月連続で前年を上回った。

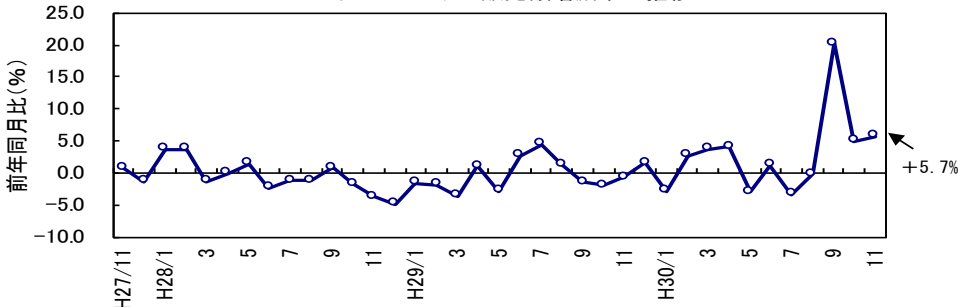
家電大型専門店販売額増減率の推移



ドラッグストア販売額増減率の推移

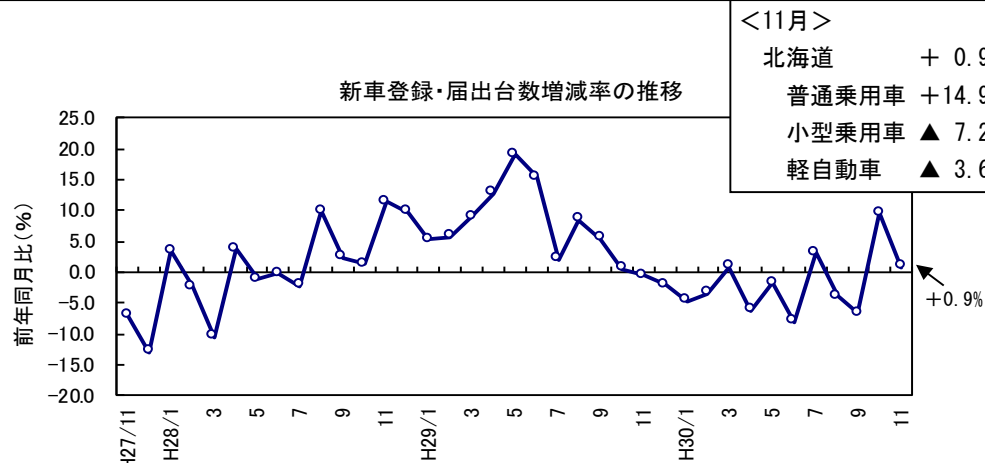


ホームセンター販売額増減率の推移



(資料:北海道経済産業局)

新車登録・届出台数増減率の推移



<11月>

北海道	+ 0.9%
普通乗用車	+14.9%
小型乗用車	▲ 7.2%
軽自動車	▲ 3.6%

(資料:(一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)全国軽自動車協会連合会)

【ヒアリング内容】

■現在の状況

- ・消費税増税前に大型テレビを買っておこうという動きが出始めている。12月から4K放送がスタートすることも後押しになっている。(家電量販店)
- ・前月までは地震直後の飲食料品のまとめ買いの反動がみられたが、今月は回復している。(ドラッグストア)
- ・冬期間の災害に備えるためのポータブルストーブやカセットコンロなどの売上が伸びている。(ホームセンター)
- ・新車販売は、昨年、無資格検査問題の影響から出荷を控えていたことによる反動と新型車効果が続いていることから増加した。(関係機関)

■先行き

- ・これまで動きが鈍かった除雪用品などの季節用品が動き出している。(ホームセンター)

11月の来道客数は、前年同月比で+1.3%と3か月ぶりに前年を上回った。また、道内外国人入国者数は、同▲5.5%と3か月連続で前年を下回った。

<11月>

来道客数 105.3万人 (+ 1.3%)
 航空機 93.9万人 (+ 1.3%)
 JR 5.9万人 (▲ 2.8%)
 フェリー 5.5万人 (+ 6.2%)

【ヒアリング内容】

■現在の状況

・9月の地震発生直後は、国内外からの観光客が大きく減少したが、10月の「北海道ふっこう割」導入を機に、落ち込んでいた旅行需要が盛り返しており、

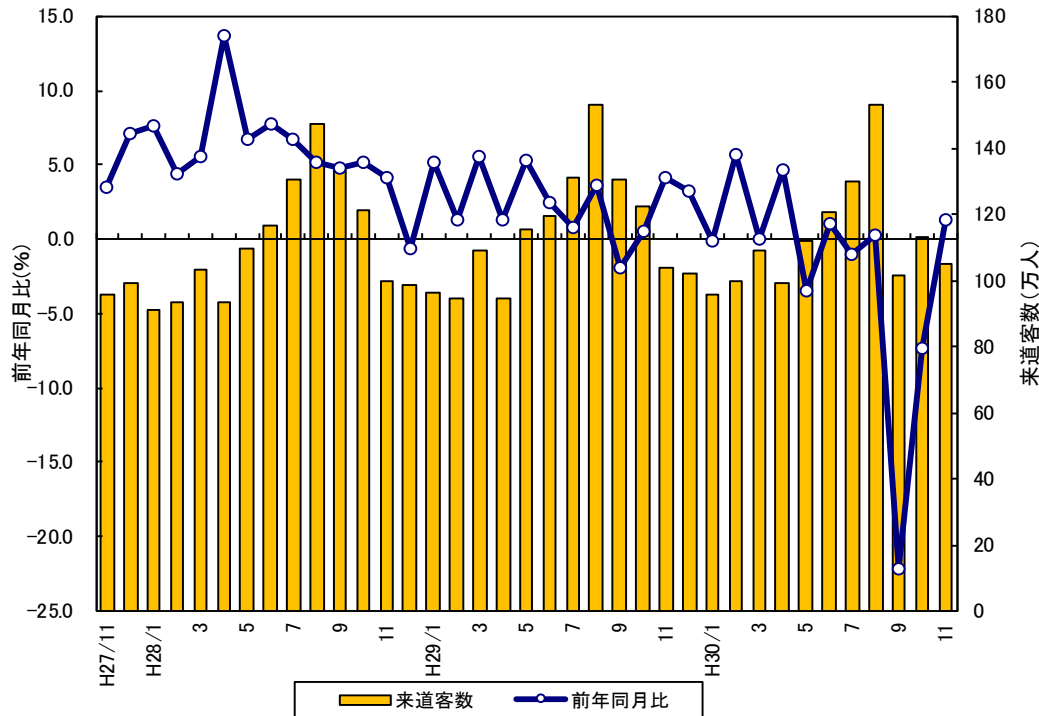
現在は観光客が戻ってきている。(宿泊業)

■先行き

・旭川空港国際線ターミナルがオープンしたが、現在の定期就航が1路線のため、新たな定期就航やチャーター便の増などによる、外国人観光客の入り込み数増加に今後期待したい。(関係機関)

・落ち込んでいた外国人観光客もかなり回復してきており、1月の宿泊予約は大変良い動きで前年比でプラスとなる見込み。2月の春節や雪まつり期間の宿泊予約も好調に伸びている状況。(宿泊業)

来道客数推移

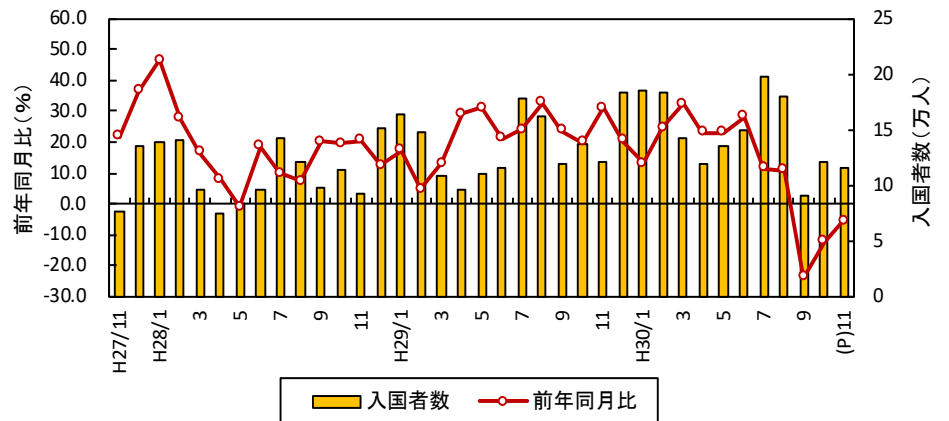


(資料:(公社)北海道観光振興機構)

<11月>

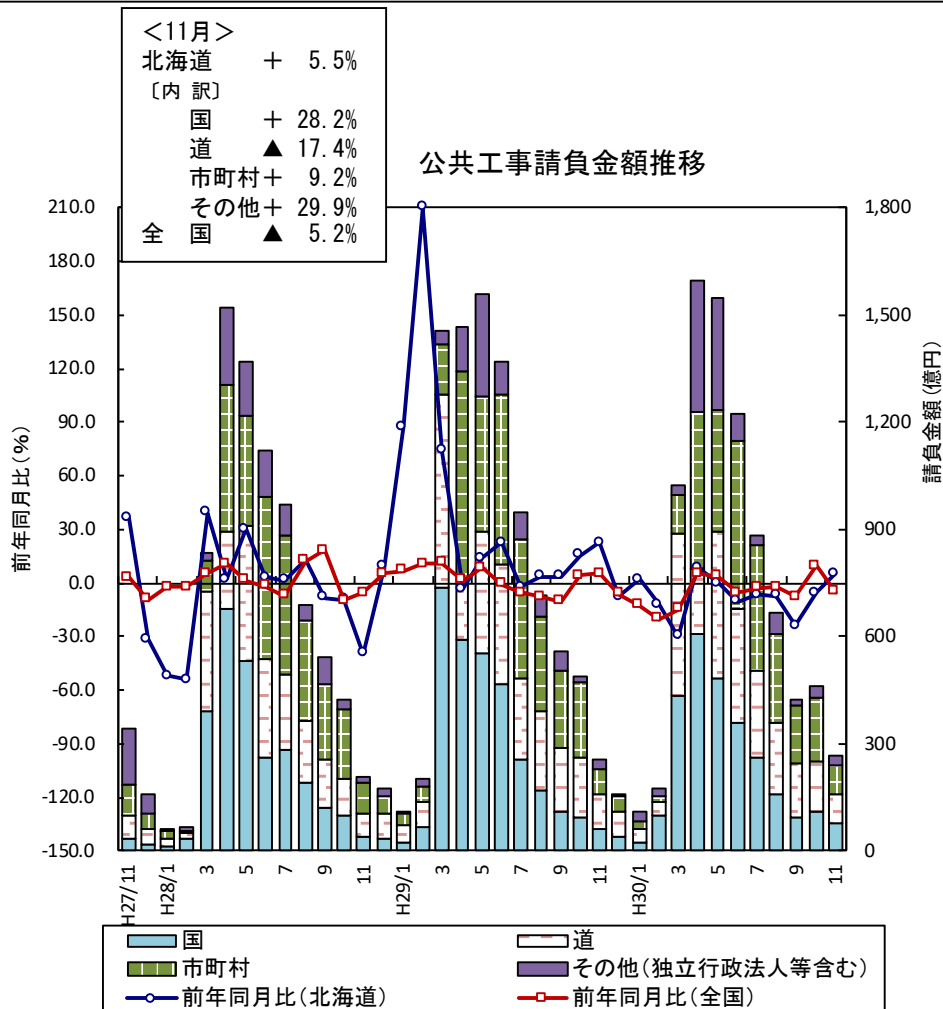
入国者数 11.5万人 (▲5.5%)

道内外国人入国者数



(注) ”p”は速報値 (資料:法務省)

11月の公共工事請負金額は、道が前年を下回ったが、国、市町村で前年を上回り、全体では前年同月比+5.5%と7か月ぶりに前年を上回った。平成30年4月～11月の累計では、前年同期比▲3.9%となった。



(請負金額は国、道、市町村、独立行政法人等の合計額)

(資料：北海道建設業信用保証(株)ほか2社)

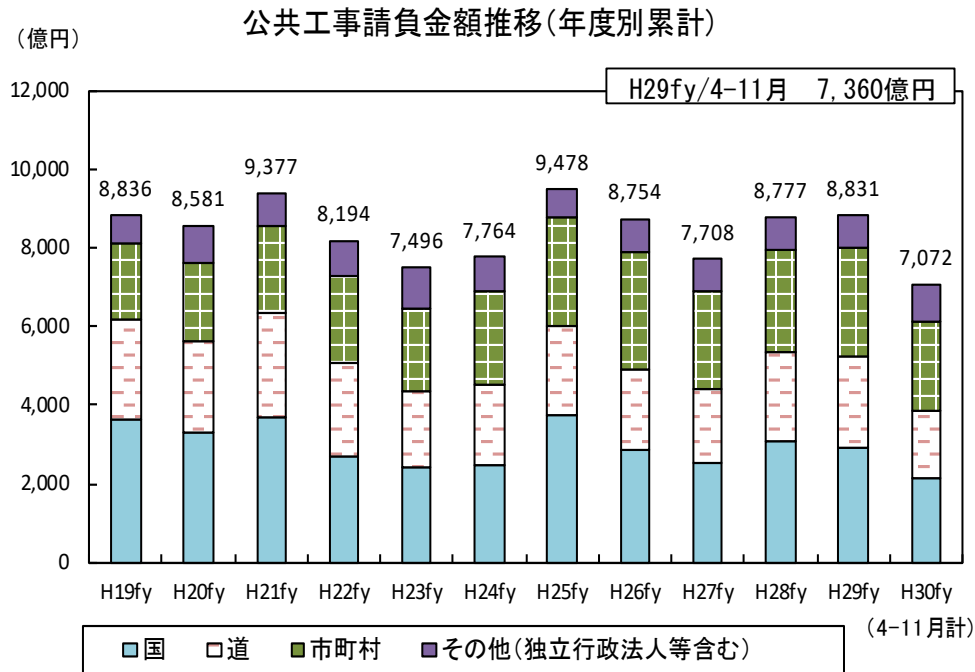
【ヒアリング内容】

■ 現在の状況

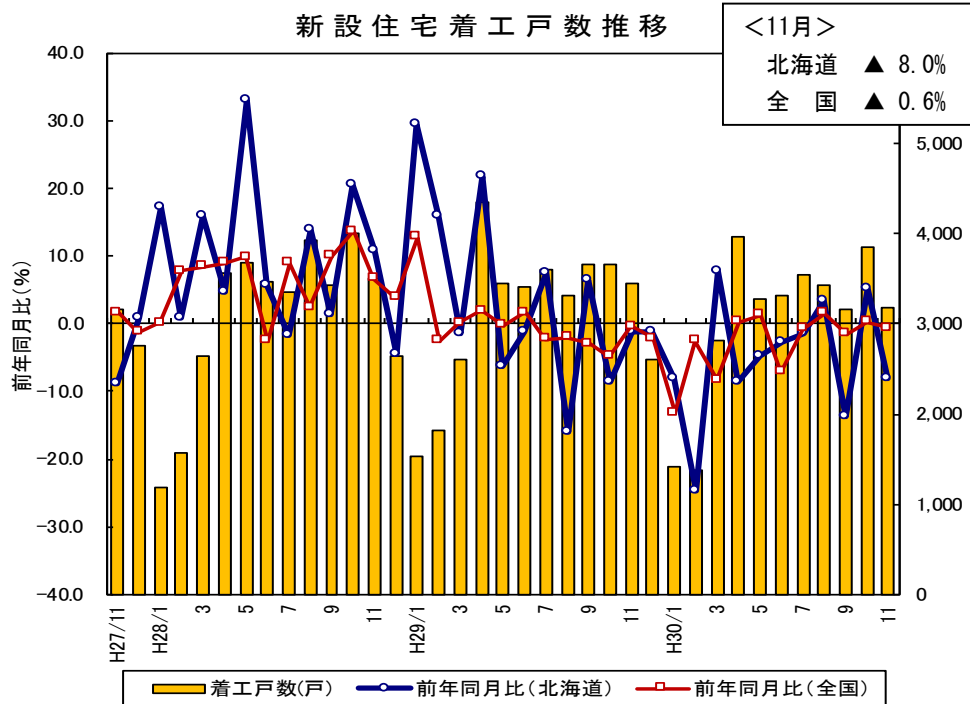
・7月の大雨被害による災害復旧工事の契約が複数あったことなどから増加した。(関係機関)

■ 先行き

・台風や地震による被害に伴う災害復旧工事は、被災箇所への調査が終わり、復旧補正予算が固まった順に、急ピッチで発注されていこう。(建設業)



11月の新設住宅着工戸数は、持家、貸家、分譲ともに前年を下回り、全体では、前年同月比▲8.0%と2か月ぶりに前年を下回った。



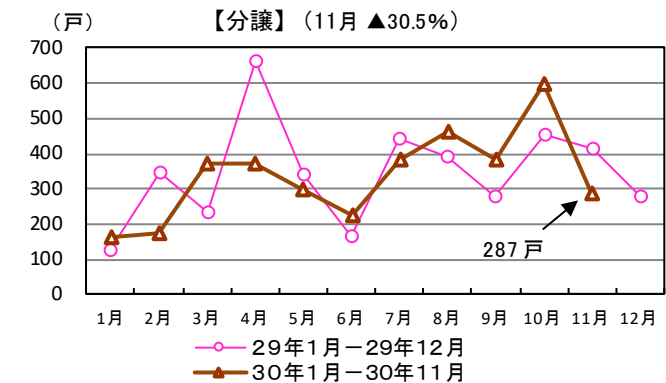
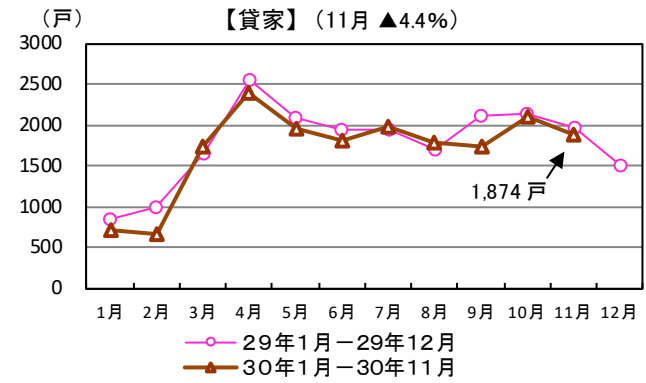
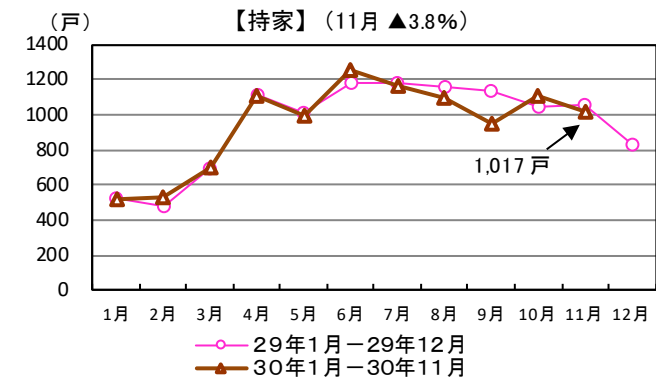
【ヒアリング内容】

■ 現在の状況

- 貸家は昨年までの相続税対策や投資向け物件などの反動減がみられる。(関係機関)

■ 先行き

- 最近は金利が低いことも後押しし、20代で住宅を購入する人も増えており、今後も同様の動きが続くとみている。(不動産業)
- 消費税増税に向けた住宅関連の負担軽減策の情報が不確定なため、確定するまでは、契約を控える人が多くなるだろう。(関係機関)

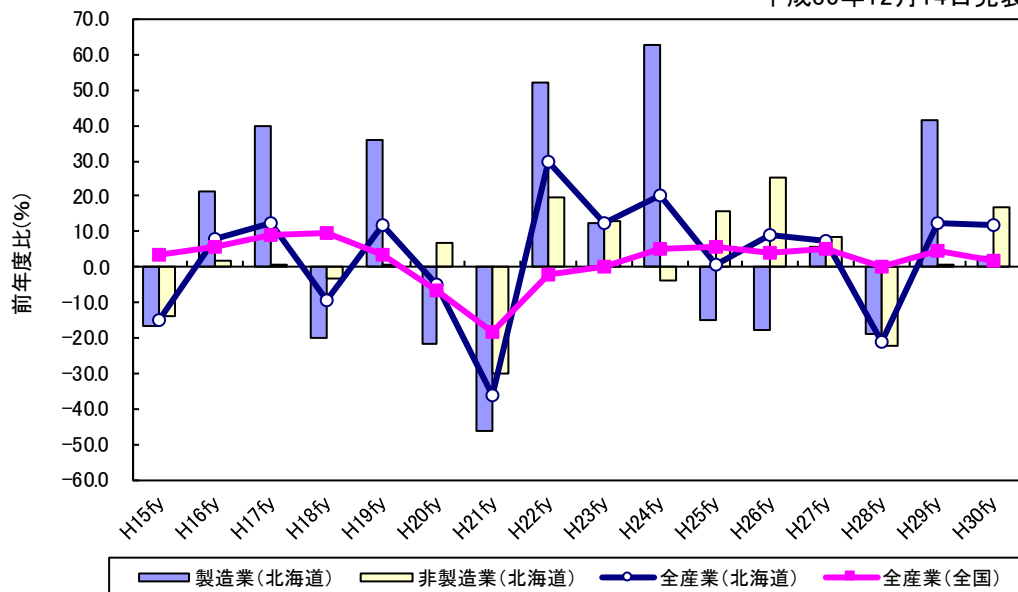


(資料:国土交通省)

30年度の設備投資計画は、全体で前年度比+11.9%と2年連続で前年度を上回った。

日銀短観の設備投資動向(製造業、非製造業別)

平成30年12月14日発表



【ヒアリング内容】

■製造業

- ・環境にやさしく安心安全な消臭剤需要に対応するため、生産能力増強投資を行う。(化学工業)
- ・紙管製造設備が老朽化したため、最新設備を導入し、生産性向上と製造能力の増強を図る。(パルプ・紙・紙加工品製造業)

■非製造業

- ・空港利用者などの宿泊需要に対応するため、空港からのアクセスが良い場所に宿泊施設を新設した。(宿泊業)

法人企業景気予測調査(設備投資)

平成30年12月11日発表

	29年度	30年度計画
北海道	+ 12.3%	+ 11.9%
製造業	+ 41.6%	+ 3.1%
非製造業	+ 0.5%	+ 17.0%
全国	+ 4.4%	+ 1.7%

対前年(同期)比 増減率(%)	30年度		
	上期	下期	
全産業	10.3	11.7	9.3
製造業	9.7	▲ 16.8	31.1
非製造業	10.6	30.8	▲ 1.9

注)土地投資額を含み、ソフトウェア投資額、研究開発投資額を除く。

注)ソフトウェア投資額を含み、土地購入額を除く。

(資料:日本銀行札幌支店)

(資料:北海道財務局)

11月の有効求人倍率は、1.23倍と前年同月差0.05ポイント上昇し、106か月連続で前年を上回った。

<11月>

北海道

有効求人倍率(常用) 1.23倍
 新規求職申込件数 + 1.2%
 新規求人数 + 4.4%

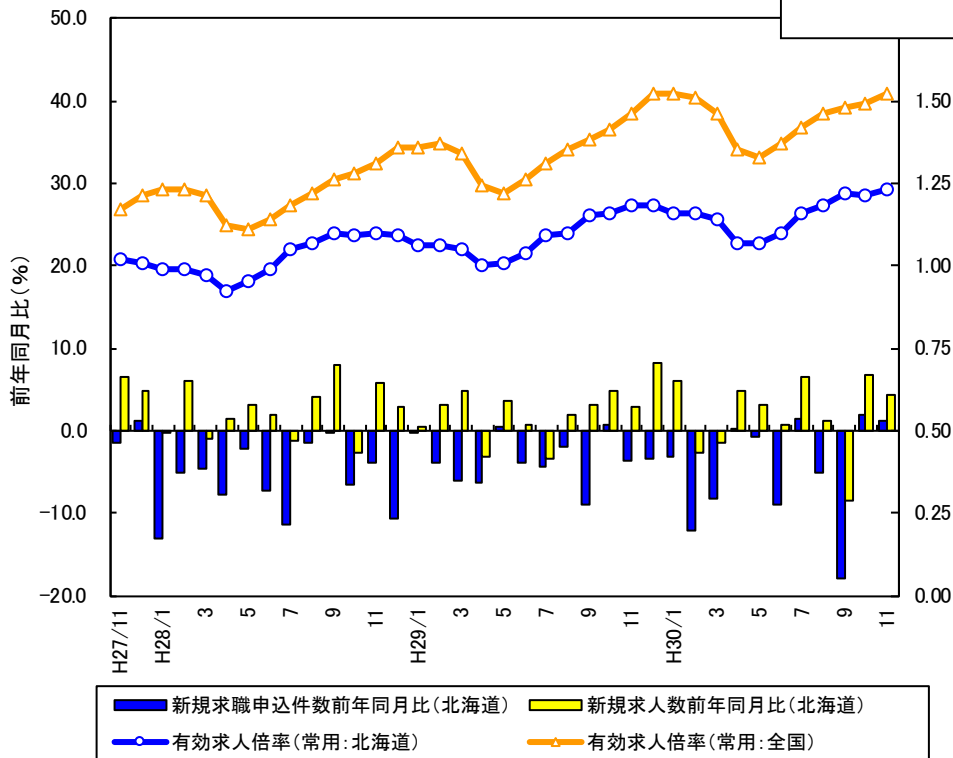
全国

有効求人倍率(常用) 1.52倍

<職種別有効求人倍率の例>

型枠大工、とび工	9.75倍	選別作業員、軽作業員	0.16倍
ホームヘルパー、ケアワーカー	3.15倍	一般事務員	0.32倍
整備工・修理工	3.12倍	会計・経理事務員	0.75倍
調理人、調理見習	2.79倍	マンション、駐車場等管理人	0.85倍
給仕、接客サービス員	2.42倍		
自動車運転手	2.31倍		
販売店員、訪問販売員	1.78倍		

有効求人倍率・新規求職・新規求人件数の推移



【ヒアリング内容】

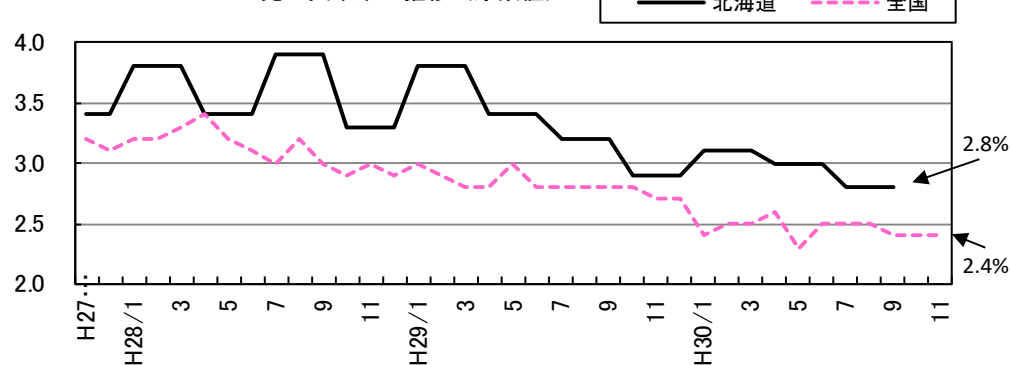
■ 製造業

- ・早朝や夕方に勤務するアルバイト人員を確保するため、時給単価の引き上げを行っている。(輸送用機械器具製造業)
- ・若年層の離職が増加しているため、中途採用や契約社員を活用している。(飲料・たばこ・飼料製造業)

■ 非製造業

- ・技術者の確保・定着を図るため、建設業界で特に不足している30～40代の子育て世代を中心に、給与・賞与の増額を行うなど待遇改善を行っている。(建設業)

完全失業率の推移(原数値)



(資料:厚生労働省、北海道労働局)

(資料:総務省)

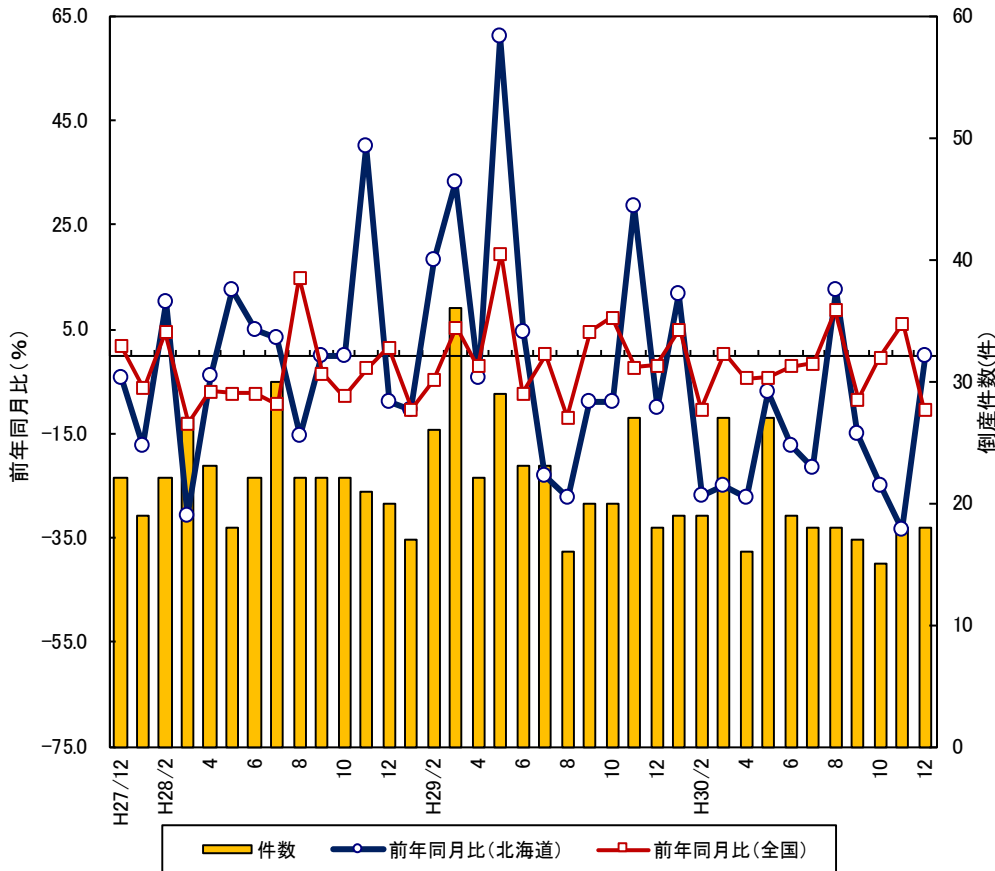
企業倒産 ～ 件数は同数、負債総額は減少している ～

企業倒産

12月の倒産件数は18件で、前年同月と同数となった。また、負債総額は15.1億円で、同▲95.0%と7か月連続で前年を下回った。

企業倒産件数推移

<12月>
北海道 0.0%
全国 ▲10.6%



(資料: (株)東京商工リサーチ)

【ヒアリング内容】

- 現在の状況
- ・平成30年は倒産件数、負債総額ともに過去最低であり、落ち着いた状況となっている。(関係機関)

企業倒産負債総額推移

